

状態ごとの施設入居事例

状態にあった施設

各施設の
特徴

入居検討時のポイント

入居の
相談先

有料老人ホームとサ高住

事例紹介

5. 入居の相談先

高齢者向けの住まいは様々であることは分かりましたが、果たしてどのように形で「相談先」にたどりつけばよいのでしょうか。特に、高齢者の場合は家族等が中心となって探すこととなりますので、介護等の専門的な知識が少ない中、資金等のやりくりなどを検討する必要があります。

多くの、相談窓口では、身体状況や介護の必要性に合わせて、入居先候補の紹介は可能ですが、前回(4-2.)の挙げた「入居のポイント」をおこなってくれる職種は少ないのが現状です。

下記の相談職種は、第一次的な窓口としてご検討いただければと思います。

この章では、「状態ごと」の相談先とその方法を記します。

状態	相談先職種 または問い合わせ先	説明
病院退院後の生活が困難	・ケアマネジャー ・医療連携室 (病院内 ※1)	在宅時から、介護が必要でケアマネジャーがついている方は、病院内のソーシャルワーカーと一緒に検討しましょう。 また、初めて介護が必要になる方は、病院内のソーシャルワーカーに相談してみましょう。
ひとり生活が難しくなった人	・地域包括支援センター(※2) ・ケアマネジャー ・役所(高齢支援等※3)	まず、担当のケアマネジャーに相談します。ケアマネジャーがついていない方は、最寄りの地域包括支援センター、または役所の高齢支援課等に相談しましょう。
家族で面倒がみられなかった場合	・地域包括支援センター(※2) ・ケアマネジャー ・役所(高齢支援等※3)	担当のケアマネジャーと相談しましょう。 徘徊や暴力が際立っている場合は、役所等にも相談することもよいでしょう。
元気なうちに住まいを替えたい	・有料老人ホーム紹介センター ・サービス付高齢者賃貸住宅 案内(「サ高住」ネット検索)	殆どは、民間企業の経営であり、「協会」組織があります。また有料老人ホーム協会は、大手中堅クラスの加盟で、登録数は780件と対象層は絞られそうです。パンフレットやネットで地域に的を絞り検索することもできます。 「サ高住」の登録は、全てネットで確認できます。地域や費用等を含めて検索できるのがメリットです。 いずれにしても、対象となる数軒は自分や家族の目で実際に確認することが大切です。

- ※1. 呼称は病院によって異なります。 地域医療連携室や福祉医療室等です
 ※2. 中学校区に1つの割合で設置された高齢者向けの公的相談機関です
 ※3. 呼称は役所によって異なります。 電話で相談内容を伝えることで担当課を紹介してくれます。